

## 第6学年道徳学習指導案

日時 平成24年9月27日(木) 5校時  
対象 6年生(男12名 女15名 計27名)  
指導者 高橋 伸

- 1 主題名 命を守る(生命の尊重 3-(1))
- 2 資料名 東京大空襲の中で(東京書籍 明日をめざして 6年)
- 3 主題設定の理由

### (1) 価値について

「学習指導要領 第3章 道徳の内容」の第5学年及び第6学年の内容3「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の(1)に、「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。」とある。これは、児童に生命のかけがえのなさを自覚させるとともに、自他の生命を尊重し力強く生き抜こうとする心、生命に対する畏敬の念を育てようとする内容項目であり、中学年での自分の生命の尊さを知ることや、生命あるもの全てを大切にしようとするなどに関する指導を通じて育まれた道徳的価値を受け、中学校の3の(1)「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。」へ発展していくものである。

ここでの「かけがえのないもの」とは、他のどんなものにも代わることでできないものであり、それを知るとは、生命が何ものにも代用できない二つとない大切なものであるということを理解することであると考える。その上で、「自他の生命を尊重する」とは、自分もそれ以外の生き物の生命も二つとないかけがえのないものであり、軽々しく扱ってはいけないこと、慈しみ、恐れ、敬い、尊ぶことであると考える。

そこで、6年生の段階においては、まず「生命のかけがえのなさ」について自己の見解をもたせることが必要であると考え。その上で、自分の生命も他の生き物の生命も様々なかかわりや調和の中で存在し生かされていることに気づかせ、生命あるもの全てに対する感謝の心や思いやりの心を育ませたい。そして、より深く自己を見つめながら、人間としての在り方や生き方の自覚を深めさせていきたい。

### (2) 児童について

学級の児童は今年度最高学年になり、縦割り班の班長を進んでつとめ、下学年の児童とのなかよし遊びを企画したり、縦割り飼育活動を進めたりしながらリーダーとして意欲的に活動している。また、入学してきた1年生のお迎え登校や朝の手伝い、遊び相手、掃除など1年生との交流活動を継続して行い、小さい子どもたちへの思いやりの心も育ち始めている。これらの活動を通し、うさぎの世話を責任をもって行うことの大切さや、小さい子どもたちへのよりよい接し方などについて無意識的に理解できている。また、誕生集会の活動を通し、自分が生まれてから現在までに親や家族から多くの愛情を授かり、健やかな成長を遂げていることについて振り返ったり、図書ボランティアの方々の「生命」に関する本の読み聞かせを聞いたりする活動から、「生命の大切さ」について漠然とではあるが理解することもできているのではないかと考える。更に、1学期には、道徳の学習の時間を通して「命の重さは人間も動物もその大小や上下の関係によって表されるものではなく、みな同等である。」ということについて学習を深めることができた。

しかし、それらは、資料の登場人物や先人の偉業に対するすばらしさについての理解にとどまり、より深く自己を見つめながら、人間としての在り方や生き方について考え、夢や希望をもって命を輝かせて生きていこうという自覚にまでは高まっていない。

そこで、「人の命を守るために努力する人たちの生き方」からどんなことを学び、これからどんな生き方をしていきたいかを考えさせる学習活動を通して、「命の尊さと命を守るために努力することの大切さ」という本時の価値について迫っていきたい。

### (3) 資料について

太平洋戦争下、武者みよさんは赤ちゃんの出産のために家の近くの相生病院に入院していた。赤ちゃんは無事に生まれたものの、ものの1時間もたたないうちに、爆弾の雨、猛火に町は覆われてしまう。武者さんは生まれたばかりの赤ちゃんとなんかに乗せられ、患者を守る14名の看護婦たちとともに猛火の町を避難する。その出来事について、後に武者さんと婦長がそれぞれの立場から振り返るとい内容である。看護婦さんたちに「たんかを捨てて逃げてください。」と言った武者さんの心情や、厳重な囲いを作って武者さんたちを守ろうとした看護婦さんたちの心情について話し合うことで、「命の尊さ」「命を守るために努力する人たちの生き方や考え方」について考えさせるのに適した資料であると考え。

### (4) 指導の態度

本学級の今年度の「河北」輝きステージプランのテーマは「生命尊重」である。2学期の目指す子ども像は、「自他の生命を尊重し、より深く自己を見つめながら、人間としての在り方や生き方を考えようとする子ども」と設定した。縦割り班の「飼育活動」、第1回誕生集会での「親からの手紙」を取り上げながら、「生命のかけがえのなさ」「周りの人に対する感謝や思いやりの心」について意識させるようにしてきた。

本時の指導では、自己を見つめさせる手立てとして、あらかじめ資料の事前読みをさせ、看護婦さんたちのしたことについての自分の思いをねむの木ノートに記入させるようにしたい。その上で、「広げる」段階で、看護婦さんたちの生き方や考え方、人の命を守るために努力している人たちの生き方や考え方から学んだことをねむの木ノートに記述させ、これからの自分の生き方について交流を図るようにしたい。

「深める」段階では、看護婦さんたちがげんじゅうな囲いをつくらなければならなかった理由について考えさせ、その時の状況をより臨場感をもって把握させるために役割演技を取り入れて、看護婦さんたちの心情に迫りたい。

4 本時の展開

(1) ねらい

命の尊さを感じ、自他の生命を守ろうとする心情を育てる。

(2) 展開の概要

段階	学習活動と主な発問	期待する児童の反応	指導上の留意点 (◆は観つめる、◇はかかわり合いの手立て)
気づく 5	1 事前読みをしていた資料「東京大空襲の中で」について感じたことを発表する。 ○看護婦さんたちのしたことについてどう思いましたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・猛火の中、武者さん親子を担いで逃げたところがすごい。</li> <li>・うでを組んで並び、武者さんたちを守ったところがすごい。</li> </ul>	◆資料の事前読みをし、あらかじめ「看護婦さんたちのしたことについてどう思ったか」をねむの木ノートに記述させ、自分の考えをとらえさせる。
深める 20	2 話合いの方向性をつかむ。 ○詳しく考えていきたいことは、どんなことですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必死で逃げている時、囲いを作って武者さんたちを守った時の看護婦さんたちの気持ちについてです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武者さんたちを守ろうとした看護婦さんたちの心情について詳しく考えていくことを押さえる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                 げんじゅうな囲いをつくって、一步もゆずらなかつた時の看護婦さんたちは、どんな気持ちだったのでしょ。             </div>			
つかむ 10	3 登場人物の行動やその時の心情について話し合い、価値について考える。 ①赤んぼうといっしょに生きのびられたときの武者さんはどんな気持ちだったでしょう。 ②げんじゅうな囲いをつくって一步もゆずらなかつた時の看護婦さんたちは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ③東京大空襲の中で、武者さんや山田婦長が感じたことはどんなことでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤ちゃんの命が助かって本当によかった。</li> <li>・先生や看護婦さんたちに感謝の気持ちでいっぱい。</li> <li>・何が何でも、武者さんや赤ちゃんの命を守ろう。</li> <li>・患者さんの命を守るのが自分たちの大切な使命。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科等の時間を使って、東京大空襲や当時の戦争の様子などについて事前に学習しておき、状況を把握できるようにする。</li> <li>◇なぜ「げんじゅうな囲い」をつくらなければならなかつたのかについて焦点を当てて、その時の状況について役割演技をさせ、演技者と周りの児童との両者に看護婦さんたちの気持ちを考えさせる。</li> <li>・看護婦だからという「使命感」の方に発言が偏ってしまう場合は、大震災の例を挙げ、「看護婦でなかつたらどうだったのか」ということについて考えられるような視点を与えるようにする。</li> </ul>
広げる まとめる 10	4 看護婦さんたちの生き方や考え方から、これからの自分について考える。 ○看護婦さんたちの姿や、人の命を守るために努力している人の姿からどんなことを学びましたか。 ○これから、どんな生き方をしていきたいと思いませんか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命がけで患者の命を守ろうとする看護婦としての尊い姿。</li> <li>・人の命を守ることは、他の何ものにも代えられない最も大切なこと。</li> </ul>	◇看護婦さんたちの生き方・考え方から学んだことや人の命を守るために努力している人の姿から学んだことをねむの木ノートに記述させ、これからどんな生き方をしていきたいか自分を見つめさせ、考えを交流させたい。 (意図的指名：将来の夢が看護士の児童2名)